

## JTB グループ労働組合連合会 第1回熊本地震復興支援活動の記録

JTBグローバルマーケティング&トラベル労働組合  
津田 慎

日 時：2016年9月4日～9月6日  
場 所：熊本県阿蘇郡西原村  
参加人数：26名

### 1. はじめに

4月14日夜、テレビ画面上の速報により、九州熊本が、震災に見舞われたことを知りました。不幸にもこの地震では、大勢の人・世帯が被災しました。震央の益城町や西原村での家屋が倒壊した映像・街のシンボルである熊本城の石垣が崩落した映像を今でも鮮明に覚えております。更には、翌日出社をすると、社内の熊本出身者も実家や友人と連絡がつかないと途方に暮れておりました。思わぬ形で、震災は私の周りにも、その影を落としておりました。

以前、福島県南相馬市で活動の手伝いの経験を通して「出来る人が出来ることをやる」を実感し、今回も僅かばかりなお手伝いではありますが、「出来ること」を熊本地震の被災者の支援活動に結び付けられたらと考え、参加申し込みに至りました。

### 2. 活動内容について

#### (1) 9月4日(日)

台風接近の中、博多駅前のバスに乗りし、九州自動車道を南下して今回の目的地である西原村に至りました。当初、集合時間および移動時間帯は、台風の九州地方（福岡県）への上陸、最接近が懸念されておりました。しかしながら、当初の予測に反して、幾分か九州を離れたところを通過したため、集合・移動に大きな支障をきたすことなく西原村に至ることが出来ました。

社会福祉法人 西原村社会福祉協議会へ寄せられた、市内の支援要請に応え、震災により手付かづとなってしまった畑の整備活動に従事いたしました。

村内にある野球場の駐車場にバスは到着し、1日目の要請を頂いた畑へと向かいました。週末ともなると草野球で賑わいそうな野球場には、おびただしい量の震災がれきである木材・コンクリート片そして、廃棄家財用品の集積場となっており、その量を目の当たりにし改めて、震災の規模・村の被害の甚大さを痛感いたしました。

(写真1参照)



(写真1：野球場の震災がれきの様子)

2反(約2,000㎡、フットサル2面分)の畑が、地面を這う下草や人の背丈ほど伸びた雑草に一面覆われており、作業開始時に、ご依頼主の「出来る範囲で手助け頂きたい」と少し疲れた顔でのご挨拶が印象に残りました。

活動を開始した10:00には、台風一過の好天に恵まれ、下草や雑草抜きに従事しました。参加者自身が各々考えて、下草や雑草を抜く人・それを取りまとめる人・運搬する人と皆が限られた時間や道具で、最良の効果が得られるよう自発的に動いていたのが、とても印象的でした。また、畑は一面夏草に覆われてしまっているものの、深く根を伸ばした雑草であっても比較的容易に抜くことが出来、ご依頼主がとても丹念に手を掛けた畑であったことが、容易に想像できました。(写真2参照)



(写真2:作業開始前の畑の様子)



(写真3:作業後の畑の様子、後方は阿蘇山の外輪山)

その日の依頼を頂いた2反分の畑は、作業予定時間内に雑草除去を終えることが出来、見通しが良くなった畑の向こう側には、雄大な阿蘇山系の外輪山が姿を現しました。上空を赤とんぼの大群が飛翔し、少し日も傾きかけ涼しげな風をうけ、皆が一様に充実感に満ちた顔をしておりました。

(写真3参照)

帰路に就く前、今回のご依頼主から「震災前は、無農薬野菜の栽培のために畑を手入れしておりました。今回また、皆様のお手伝いで栽培の目途が立ち、これからは、日本一の無農薬野菜を目指します。」と、こちらが嬉しくなるお礼と抱負を聞くことが出来、一日の疲労がとても心地よいものを感じられました。

## (2) 9月5日(月)

この日は、「瓦礫と一輪の花プロジェクト」の企画する向日葵迷路畑の整備活動支援が、この日の活動内容でした。震災がれきが村からなくなる日まで、花の植え付けにより被災者を元気づける事がプロジェクトの趣旨です。

先日、大学生の別のボランティア団体が植栽をした向日葵畑の整備作業を行いました。現在、一面に植えられた苗木は、数週間後には、立派なものに生長し、その暁には向日葵迷路が完成し、



(写真4:向日葵とメッセージカード)

近隣の幼稚園児・小学生の遊び場となるとのことでした。

向日葵の成長の阻害になる雑草類を除去し、半日を終えました。活動の最後には、団体の代表から、思わぬ機会を頂きました。今回参加した、私たちにも向日葵の苗木とそれに添えるプラスチック製の小さなメッセージカード作成です。

各自で、熊本や被災地域などに対する思い思いのメッセージを添えて、苗木を植えました。

(写真4参照)

### 3. 活動を終えて

今回は、労働組合連合会を通じた支援活動への2回目の参加となりました。大人数で行っても、やはり限定的な範囲であったり、日数の制限があったりと支援活動参加前は、いささか私自身の活動の成果に不安を抱きました。野球場に積み上げられた、夥しい量の震災がれきや、屋根が一様にブルーシートで養生された町並みなどと比較すると確かに、小さな成果ではありました。

しかしながら、一日目の畑のご依頼主が元気を取り戻し、また NPO の企画する活動の支援の先には、向日葵迷路を小さな被災者が笑顔で駆け回ることを想像すると、非常に大きな可能性の苗を被災地に植えることが出来たと思います。

地域が以前に負けない活気を取り戻すには、やはり地域住民の元気が必要であり、同じく志を持ったグループの仲間と地域の方々を支援する今回の活動も大変有意義なもので、テレビ画面だけでは伝わらない、地域の皆様の思いや感謝の声・笑顔に接し、こちらのほうが元気を頂いて帰ってきたように思います。また、先と同僚からも「活動に参加してもらってありがとう。」と言葉を頂き、改めて、支援活動の波及効果やその重要性・意義を実感いたしました。



(今回の参加者集合写真)